

婦人会報

令和五年
6月2023年
立教186年



天理教婦人会旭日支部

通卷528号

七月例会案内

日時 七月五日（水）午前十時

場所 旭日大教会

内容 教祖祭

お願いごとめ

てをどり（前半下り）

大教会ひのきしん

昼食

※ 昼食は食堂にてお召し上がり頂けます。

※ 社会状況により変更になる場合がございます。

七月例会役割

属者	生駒恵美子	奥村はる恵
賛者	前田 理恵	辻 花子
指図方	山崎さとえ	



六月月次祭炊事当番

係員 藤井 優子 松田 直美

※9時までにごエプロン・三角巾を持参の上お越し下さい。

六月月次祭親子参拝場ひのきしん当番

係員 前田 理恵

◇四月より「月次祭託児」ではなく、育成室にて親子で参拝する部屋を「親子参拝場」として設けていますので、ご利用下さい。
午前九時十五分より祭典終了までです。

旭日大教会ホームページより、カラーでご覧頂けます。ご利用下さいますようお願い致します。

URL <http://asahi49.net>



「おつとめの心構え」

vol.11

今回は「七下り目」
について述べさせて
いただきます。



●七下り目（慶応三年）【参考文献『みかぐらうたの世界をたずねて』道友社編】

◎一ツ ひとことはなしハひのきしん

※¹にほひばかりをかけておく

一ツ 一言神の話をするのも、ひのきしんである。

※¹「におい」

※ 嗅覚を快く刺激するもの、かおり、風情など多彩な意味が含まれる。

◎二ツ

※²ふかいこゝろがあるなれば
たれもとめるでないほどに

二ツ （たすけ一条の）深い心があるのならば、誰も止めることはできないであろう

※²「ふかいこゝろ」

※ 可愛い子供である世界一列の人間を救いたいという、天地人間創造以来の深遠な親神様の思召。

◎三ツ

※³みなせかいのこゝろにハ
でんぢのいらぬものハない

三ツ 世界の人みな心の内を見るに、田地の要らないという者はない

※³「でんぢ」

※ 田畑となっている土地。

◎四ツ

※⁴よきぢがあらバ一れつに
たれもほしいであらうがな

四ツ

ましてや、よい田地があつたならば、みな誰
もがほしいであろうよ

※4「よきぢ」

|| 收穫量の多い、上々田、上田、美田。

◎五ツ

※⁵いづれのかたもおなしこと
わしもあのぢをもとめたい

五ツ

どこのだれでも同じことで、私もあの良い田
地を求めたい

※5「わしも」

|| 教祖自身のことを表したものである
との解釈もある。

◎六ツ

むりにどうせといはんでな
そこはめい／＼のむねしだい

六ツ

しかし、無理にどうせよとは言わない。そこ
はお前たち一人ひとりの胸次第である

◎七ツ

※⁶なんでもでんぢがほしいから
あたへハなにほどいとても

七ツ

どうしても田地が欲しいから、価はどれほど
要るとしても

※6「あたへはなにほどいとても」

|| 代価がいくらであろうとも。

◎ハツ

やしきハかみのでんぢやで
まいたるたねハみなはへる

ハツ

この屋敷は神の田地である。蒔いた種はみな
生える

◎九ツ

※₇
こゝハこのよのでんぢなら
わしもしつかりたねをまこ

九ツ

この屋敷が、この世の最上の田地であるなら、
私もしつかり種を蒔こう

※₇ 「こゝ」

|| 親里ぢば。

◎十ド

このたびいちれつに
ようこそたねをまきにきた
たねをまいたるそのかたハ
※₈
こえをおかずにつくりとり

十ド

この度みなそろつて、ようこそ神の田地に種
を蒔きに来た。種を蒔いたその者は、肥料を
置かずとも豊かな収穫をみる事ができよう

※₈ 「こえをおかずに」

|| 種を蒔いた後に修理をしたり肥を置かず。

陽気ぐらし世界建設の土台作りについて歌われ、ぢばに種をまくひのきしんの有り難さが述べられています。

一ツ・二ツは「にをいがけ」すなわち「ひのきしん」であること、三ツから七ツは、田地にたとえて真実の種まきの重要さ、
八ツから十は、やしきへの真実の伏せ込み(神の田地への種蒔き)が救済成就の基盤であり、かんろだい世界への道であ
ると述べられています。

諭達第四号発布を戴いて

諭達の中のお言葉を説明しよう

～お言葉の意味を知ってる?～ vol.4



ようぼく

陽気ぐらし世界建設のための人材・用材のことで、おぢばで別席を運んで（親神様のお話を聞いて）、おさづけの理を戴き、ようぼくとなることが出来ます。頂戴したおさづけの理を、病む人にしっかりと取り次ぎ、また、教祖の教えを人々に伝えて、陽気ぐらし世界の建設に向かって力を尽くすことが大切な使命です。

おさしづ

個人や教会その他の、身上・事情の問題をはじめ、日常生活の中に起こる、いろいろな事柄について、親神様にお伺いしたことに対して、また、その時々親神様から事細かに心構えや歩み方、身の処し方を指図して下されたお言葉を筆録したものです。

『おふでさき』や『みかぐらうた』が神一条の信仰の根本、基準をお示し下されているのに対して、『おさしづ』は、その時その場に応じて心の持ち方、身の処し方をお仕込み下さっているもので、神一条の信念に立って現実生活をどう行動するかという、応用問題に対する悟り方をお教え下さったものとも言えます。『おふでさき』『みかぐらうた』とともに、天理教の三原典の一つ。

参考文献：ようぼくハンドブック・天理教婦人会HP

◎次回は諭達3ページ目のお言葉について紹介させていただきます。



こかん様に続く会開催

A S A H I

去る5月3日13時より、こかん様に続く会が開催されました。はじめに支部長様より、こかん様のお話を分かりやすく詳しく聞かせて頂きました。その後「本部でおつとめをつとめ、神殿案内の勉強をさせて頂きました。」「おももり」では下附して頂く際、参加者全員で、本部の先生より直接お話を聞かせて頂くことができ、尊いお話が皆それぞれの心に残りました。

大教会に帰ってからは、レクリエーションや、ビンゴ大会、スイーツタイムが行われ、女子青年同士の親睦を深める楽しいひとときを過ごしました。

女子青年係記

- 13:00 大教会集合 受付
神殿参拝 支部長様のお話
- 13:30 大教会出発
本部にておつとめ
～神殿案内の勉強～
 - ・かんろだい
 - ・親神様
 - ・教祖
 - ・をびや許し
 おまもりを頂く
 - ・霊様 三社の説明
- 14:40 本部出発
- 15:00 親睦会
- 17:00 解散



満開のツツジと♪



支部長様のお話



本部へ向かいます



豪華！フルーツオードブル

女子青年 日和



手作りスイーツ



ビンゴ当たりますように



笑顔でパチリ



委員長・副委員長です。よろしくお願ひします。

「今年に蒔いて」

今年に蒔いて、今年に取れようまい。



(おさしづ 明治25年6月15日)

発行日 令和五年六月五日

発行者 岡本道子

発行所 天理市田井庄町一二八
天理教婦人会旭日支部